



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

誌上句会 「0番線」

ひとり静・むさし 選

2022

9



題「動」ひとり静選	4
むさし選	6
無人駅鑑賞「カンテラ」むさし	8
会員雑詠集「無人駅」	11
■例月句会結果■	
おかげようき川柳社 8月月例会	23
川柳吟行会「ぼ」	28
十和田たてがみ川柳会 7月句会報	32
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	22
Infomation	35～

0番線

選 静 ひとり 「動」 題

【佳作】

- 動線はブエノスアイレスで消えた
先ず動く花はそれから咲かせよう
動かざるもの愛と言う名の難破船
洗濯機を動かし円周率を解く
うそっぽい月夜の晩に動きましよう
ここちいい動物園の通気性
動じないことで失われていく命
重箱の隅に動詞の終止形
濁点打つやつと動いた座標軸
動乱やネズミ花火を買い占める
月までの動線確保して海へ
すり足で移動して行く活断層
「不服従」と貼り紙のある自動ドア
爆撃にちよつと揺らいだ白鳥座
ひぐらしの声は純然たる動機
攻撃の右クリックは正しいか
- 愛媛県 吉松澄子
青森県 渡邊こあき
愛媛県 青野 舞
青森県 笹田隆志
愛媛県 吉松澄子
鳥取県 斉尾くにこ
愛知県 安藤なみ
青森県 笹田かなえ
愛媛県 山内もとこ
富山県 達 毘 古
大阪府 岸井ふさゑ
愛知県 中川喜代子
青森県 笹田隆志
青森県 滋野さち
徳島県 徳 長 伶
青森県 須藤しんのすけ

- 泣かないわワタシ四輪駆動だし
片側に曇天 動かないシーソー
助動詞の波紋ガーゼのパジャマ揺れ
パレットの動かぬ位置に白と黒
- 秋田県 佐藤春子
青森県 守田啓子
鳥取県 斉尾くにこ
愛媛県 大内せつ子

【秀逸】

- 天蕎麦をずるり 終末時計のそり
傘の中天動説が花盛り
乾電池一個で動く正義感
- 青森県 奈良一艘
青森県 稲見則彦
愛媛県 松木慎吾

【特選】

- 雨垂れがポツン 斜めに犯行動機
- 青森県 守田啓子

【特選】 訳のわからない突飛な事件は、ごく普通のなんでもないものやことに、突然、誘発されるのか。心の不思議。【秀一】 ネットでもメディアでも正義と言う言葉

選 評

が余りにも軽く使われ過ぎてい
る。大きな声で言うものではない
し、振りかざしたら戦争にも繋が
るものなのに。【秀二】 核の傘を
まだ信じた人が多いのでしよ

ひとり 静

う。花盛りが怖い。抑止力より核
廃絶を。【秀三】 濁音と清音、天
蕎麦と終末時計の対比。重いこと
を軽妙に表現されていると思う。

0番線

選「動」むさし

【佳作】

動くな、今、苦々苦々、辛抱ちゆうだ。
 おバカさん恋の波動を出したでしよ
 泣かないわワタシ四輪駆動だし
 微妙だにしない銃口から海鼠
 身じろぎもできず見上げる忿怒形
 動脈があなたのほうへ行きたがる
 動く歩道で虹を見上げてみるマスク
 月よ私を動かしてみろがいい
 転職の動機 苔の花の招き
 クリムトの男の指が動きだす
 月までの動線確保して海へ
 逢いましょう動かぬ時計持ち寄って
 雨垂れがポツン 斜めに犯行動機
 凶弾に斃れたからって 赦さない
 先ず動く花はそれから咲かせよう
 脱け殻を置いていきます悪しからず

青森県 旅 男
 愛媛県 青野 舞
 秋田県 佐藤 春子
 愛媛県 田中 なお
 滋賀県 大谷のり子
 大阪府 峯 島 妙
 岡山県 しばたかずみ
 千葉県 尾崎 良仁
 大阪府 宮井 いずみ
 静岡県 米山 明日歌
 大阪府 岸井 ふさゑ
 奈良県 柳本 恵子
 青森県 守田 啓子
 青森県 葉 閑 女
 青森県 渡邊 こあき
 青森県 まみどり

さつちゃんほうのロイルカの輪つか
 そうかお前も動きたいのか青信号
 鉤カッコ外して毬を弾ませる
 重箱の隅に動詞の終止形

滋賀県 中島 順子
 愛知県 青砥 和子
 大阪府 笠嶋 恵美子
 青森県 笹田 かなえ

【秀逸】

「不服従」と貼り紙のある自動ドア
 すり足で移動して行く活断層
 助動詞のあたりで道に迷い込む

青森県 笹田 隆志
 愛知県 中川 喜代子
 大阪府 峯 島 妙

【特選】

天蕎麦をずるり 終末時計のそり

青森県 奈良 一艘

特選句は、我々が「蕎麦」をすすっている間にも「終末時計」は針を進めると言っている。

終末時計は、人類が滅亡する「地球最後の日」を午前零時とし、そ

選評

れまでの残り時間を象徴的に示す時計。

核兵器、パンデミック、気候変動、生物学的脅威、人工知能や近年急速に拡散される偽情報など地

むさし

球を脅かす課題は山積し、現在、人類滅亡まで「残り100秒」となっている。

二句一章が効果的。

【0番線「動」：投句者 67名】香田龍馬・稲見則彦・達毘古・佐藤春子・柳本恵子・中川洋子・田中なお・安藤なみ・青野舞・吉松澄子・笹重耕三・旅男・尾崎良仁・高木まあとこ・宮井いずみ・山内もとこ・峯島妙・芝岡かんえもん・しばたかずみ・中川喜代子・星出冬馬・吉田吹喜・岩根彰子・まみどり・柴田美都・木戸利枝・須藤しんのすけ・土田雅子・辻井洋子・一帆・中島順子・笹田かなえ・坂本清乃・笠嶋恵美子

齊尾くにこ・西沢葉火・川西則子・松木慎吾・大内せつ子・山内美恵子・米山明日歌・岸井ふさゑ・山田こいし・村上あつこ・大谷のり子・滋野さち・みつ木もも花・守田啓子・石橋芳山・山内房子・岡村水無月・吉原美佐・もりともみち・葉閑女・丸山健三・渡邊こあき・上村夢香・鳴海賢治・熊谷冬鼓・田中薫・青砥和子・徳長怜・笹田隆志・奈良一艘・夏草ふぶき・三浦蒼鬼・石倉多美子

カンテラ

むさし

川柳とは関係ないことですが、14年前、東京秋葉原で7人を殺害した無差別殺傷事件で死刑が確定していた加藤智大死刑囚が7月26日、刑を執行されました。

加藤の4歳下の弟は、事件直後に仕事をやめ6年後に自ら命を絶つたといわれています。

父は事件後まもなく金融機関を退職し、家の電気もつけず、夜はろうそくに火を灯して生活しているようです。罪の意識にさいなまれた母親は、心のバランスを崩して精神科に入院。その後、青森市内のアパートで父親同様にひきこもりの生活をしているらしい。

加藤に殺害された人もその家族も、また、加藤の家族も加藤本人も悲惨。

どこがどうしてこうなってしまったのか。

それではカンテラに明かりを灯しましょう。

A群

体重計に口止めをしてだす水着
夢を見た北極星になっていた
山背来る軍手の穴が身構える
断捨離の途中迷子になりました
正論は未だ音信不通です
本件は道路の脇に落ちていた
ねむの木が母を飲み込んだ静かな日
寅さん寅さん暑い日は来ないでね
夏服は去年と同じまあ平和

ひらく
柳谷たかお
坂本清乃
城後朱美
まきこ
田久保亜蘭
田中 薫
旅 男
辻井洋子

蘭だけが遺つて姑の三回忌

土田雅子

前触れもなくやってくる夏野菜

まみどり

戦争をはじめる前に地雷踏む

笹田隆志

知り合いの知り合いという落とし穴

熊谷冬鼓

草むしりスカイツリーも抜いてみる

芝岡かんえもん

芝岡かんえもんさん、豪快な句ですね。にしても、「スカイツリー」を「草むしり」のついでに抜いてしまつてスゴイっす。ね、かんえもんさん、「スカイツリー」って634メートルだつて知ってる？634は「むさし」って読めるんだよ。

B群

星めぐり終えて絵本へ戻す空
名をつけてひとつの箱になる途中
置いていった嘘を星型で抜いてみる
集まってカサブランカがするゲップ
ご立派な葉桜になりましたのね
溪流の煌めいている膝頭

葉 閑女
ひとり静
きさらぎ彼句吾
岩根彰子
齋藤泰子
小野五郎

えくせんえんかみきれになつてしまつよ
抜け殻を見ている闇を見ている
弁当の隅に寄せはる天の川
無駄口もなく転がった手製銃
こんな日も出て・・・水臭い夕日だよ
眼を開けて眠ると満月になれる

達毘古
吉見恵子
須藤しのすけ
四ツ屋いずみ
守田啓子
三浦蒼鬼

三浦蒼鬼さん、「眼」と「目」は違うつて今辞書を引いて初めて知りました。「眼」は眼球のことで、「目」はまぶたや目頭など周辺のパーツを含めたものらしい(汗)ま、そんなことはどうでもいい。問題は「眼(目)」を開けて眠る」こと。ドライアイになつたり、ほこりが目に入つて表面に傷がつくことがあるから気をつけないといけないってよ。あ、関係ないか(汗)蒼鬼さんが書いてるのは、眼(目)を開けたまま眠っていると、夢の中で「満月」になるってことだよ。私もやってみましたが、実は、満月になれませんでした。知らぬ間に目をつぶっていたらしい(汗)

C群

遠回りしようかコッペパンだから

石橋芳山

平熱以上玉ねぎ以上 夏

柳本恵子

花の名を分母にもってくるからよ

米山明日歌

人として正しく転倒した…のかだ

奈良一艘

石橋芳山さんは、「コッペパン」だったのですか。「コッ

ペパン」は「紡錘形で、片手で持てる大きさで、底が平たいパン。」(ウィキペディア)です。日本独自のもので、

1980年代まで学校給食の主食でした。ということでは、

芳山さんは食べられてしまうといけないので「遠回り」するのかな?それとも、「遠回り」する癖があるのかな?

あ!コッペパンが嫌いだからよけて通るってこと?

柳本恵子さん、「夏」と「体温」と「玉ねぎ」って互

いに関係があったんですか。「平熱以上」ってことは微熱があるってことでしょうか。微熱があるってことは何

かの病気に罹っているはずですよ。次の「玉ねぎ以上」っ

てどういうこと?もしかしたら、タマネギを切ると涙が出ることと関係あるのかな?ということでは、「夏」の暑

さは、微熱があることや、玉ねぎを切って涙が出ることより辛い、と読みましたが違いますよね…。

米山明日歌さん、「花の名を分母に」にするって、具体的にはどうするのか分からないのですが、とにかくおもしろいですね。「バラ分の右手」とか、「椿分の一等星」とか「紫陽花分の鼻の頭」とかって、読んだだけでもおもしろい。句が「:」からよ」で終わっているということは、

句の前にあるはずの「:」なのは」というフレーズが省略されているんですね。「わたしが美人なのは」とか:(汗)この句、ズーッと楽しめそうですね。

奈良一艘さん、「転倒」は「①さかさになること。さかさにする。②ひっくりかえること。ひっくりかえること。③あわて惑って、度を失うこと。狼狽。」(広辞苑第七版)だけど、人間に正しいひっくり返し方というのがあったのですか。勉強不足で知りませんでした。昔、柔道の授業で受け身を習ったことがあるけど、あれも「転倒」の仕方だったのかな…。あれ?もしかしたら、一艘さんは広辞苑の語釈の③のことを書いたのかな?

おかしき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅8月月間賞

大皿へ野菜畑を広げてる

辻井洋子

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

船室のエンジン音のソリチュード
桃井かおりのうつろ頼杖土偶
跳び箱7段のふくらはぎ唱う
スローで行こうぬるめの湯ごくり
無駄口もなく転がった手製銃

先月号の
お気に入り

出来ないと言わず解らないと逃げる 葉閑女
なるほど、生活の知恵ですね。そうします！

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

日記には足のことだけ書いておく
どうしても演歌になつてしまふ恋
花の名を分母にもつてくるからよ
物差しの目盛りの寒さ違う人
幸せはすぐに外気に触れたがる

先月号の
お気に入り

そうだ！ブルーチーズになるよ 奈良一艘
もう、大分、なつてらっしゃると思ひますが……、

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

それぞれの高さで揺れる船溜まり
生きている暑さ 解剖台の冷え
あのとぎの風このときの雨泣き柳
消化して排他的バツテラを吐く
一匹の羽虫が付きまとう ふふ

先月号の
お気に入り

エンターキー連打本日ご乱心 須藤しんのすけ
かわいい。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

チャリンコでゆるりと平安の京都
オカリナの音色をコンドルが突く
遠回りしようかコツペパンだから
アンパンの感情線が太すぎる
わがままを通して断章のねじれ

先月号の
お気に入り

山頂には一人贅沢な時間 城後朱美
達成感と満足感そして独り占めの展望。何度味わつても
いい。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

廃屋の白無花果の子だくさん
集まつてカサブランカがするゲツプ
アペリアの露腹筋を科せられる
振りかけにしようか蝉の大合唱
袋綴じにしとくバス停の霊芝

先月号の
お気に入り

天国がその辺にあるらしいのよ 吉田吹喜
夕飯の献立をシンプルにします。地獄もその辺にあるんだ。

上村夢香【うへむらゆめか・山口県岩国市】

蝉が鳴くはやくはやくと急かされる
進歩なしたただだ詫びる七回忌
紅一点愛しいグラブ抱いて寝る
今朝もまた追いかけていく清方を
大逆転ベテランが花添える劇

先月号の
お気に入り

生ぬるく時間ばかりが過ぎていく まみどり
なぜこんなにも速く時は過ぎていくのか。誰がわたし
の時を盗んでいるのでしょうか？

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

溪流の煌めいている膝頭
ナイヤガラ下四桁が一致する
ジンフィズは別れの儀式夜の秋
知つてるかアマゾン川は非正規だ
モルフオ蝶まき散らしてる吸っている

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

堅めに巻いた帯の下からクリームト
置いていった嘘を星型で抜いてみる
幸せは読点でほんの息継ぎ
否定も肯定もしない夜のうなじ
いつまでも雪に成れないサヨナラ

先月号の
お気に入り

笑顔さえ固定しとけばうまくいく 夏草ふぶき
そう思って嫁をやりましたが……

熊谷冬鼓

〔くまがいとうこ・青森県青森市〕

元氣かと聞かれ嵩増してしまふ
付箋貼る傾きだした部位に貼る
そんなことよりも月に阻まれる
耳寄りな話をふたつほどもらう
知り合いの知り合いという落とし穴

先月号のお気に入り
バサバサと枝が切られてゆくニュース
映像を見ての憤りやむごさ。同感です。
ひとり静

斎藤泰子

〔さいとうたいこ・秋田県大館市〕

ご立派な葉桜になりましたのね
回転皿あら幸せが遠くなる
こんなことぐらい何サと七十婆
お隣の季語が青いなでつかいな
打つ手なら打つた神様どうでしょう

先月号のお気に入り
おじいさんと言われて海を眺めてる
むさし
おばあさんも海を眺めていいでしょうか？

芝岡かんえもん

〔しばおかかんえもん・神奈川県横浜市〕

生まれつき掠れちやつてる鬨の聲
銀座がくれた冗談じゃない玉手箱
呑めというなら呑みますよあなたごと
大砲の融けてしまった四畳半
草むしりスカイツリーも抜いてみる

先月号のお気に入り
降り始めは静かな語り口でした
熊谷冬鼓
意味深な上五からはじまるこの句
妙に惹きつけられました。
いったい何が待っているのだろうか。

城後朱美

〔じょうごあけみ・福岡県八女市〕

贅沢しなれば好きなことできる
断捨離の途中迷子になりました
捨てられもせず夫のものの夫の服
1人にはさせてはくれぬ山登り
暇じゃないのに境界線の草筆り

先月号のお気に入り
たそがれています大事な時間です
斎藤泰子
たそがれる時間は宝物。無駄な時間はないのです。

坂本清乃

〔さかもときよの・青森県蓬田村〕

雨上り土に咽せてる南瓜花
山背来る軍手の穴が身構える
来世は水槽に居る熱帯魚
楽しいねスーパームーンとおしゃべりだ
どうしても逃げたい訳の豆の蔓

先月号のお気に入り

笹田隆志

〔ささだたかし・青森県青森市〕

戦争をはじめる前に地雷踏む
雷ごろごろ親指びくびく
ヤコブ病のシナイモツゴを飼っている
出産まぢか予定変更して添い寝
作戦中止 助けてほしい飴と鞭

先月号のお気に入り
頬杖太宰 腕組み安吾 繰り返す 達毘古
太宰は嫌い、安吾も嫌い、でもなぜか気になります。

須藤しんのすけ

〔すとうしんのすけ・青森県弘前市〕

愛されていたと言う魔法をかけて
真つ黒な瞳で夜を遊ぶ
好感度爆上げ無防備な右手
花柄のTシャツが届く午前四時
弁当の隅に寄せはる天の川

先月号のお気に入り
裏切りの匂いをさせる桃の息
米山明日歌
kinoumo 「MOMIROTOKI」 utainasita。

瀧尻善英

〔たきじりよしひで・青森県八戸市〕

真つ直ぐに歩けぬフンコロガシだった
武勇伝語れば風が狂い出す
あの世では座敷わらしになるだろう
五百羅漢かぞえ続けてゼロになる
ライオンじゃないよ突き放されたボク

先月号のお気に入り
見せしめにされたんですね伸びたゴム
ひとは
全力で臨み、やり遂げた輪ゴム。みせしめであっても伸
びきったその姿は美しい……。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

アウトロー的な金ブラシの裸道中は関所破りを推薦す
問一に問題起きてジョコビツチ花のあるお方にトンボ止まらない
本件は道路の脇に落ちていた

先月号のお気に入り

達毘古【たつひこ・富山県高岡市】

えくんえんかみきれになつてしまふよ
俺の角返せと母校にメールする
ヤマアラシだと先に言えよ痛いだろ
ママチャリを月まで漕いで亡母に逢う
火葬場の煙りを吸って動く月

先月号のお気に入り

間違つたふりして風船を逃がす 斎藤泰子
みんながこんなやさしいところなら、...

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

花嫁の懺悔の時間蝶が舞う
ねむの木が母を飲み込んだ静かな日
ヒューチャーズ第六感で山を見よ
これからはソーラン節で行きますか
ひっくり返したつて閨間は閨

先月号のお気に入り

飲んで食べ歌い旅した四人組 渡邊こあき
またいつか 絶対に四人組 万歳区

旅 男【たびお・青森県五所川原市】

犬や猫にも寅さんが棲んでいる
剥き身が痛いプラン75
固唾をのんで腹立てて75
瞬きのロートル「ハッ」やで
寅さん寅さん暑い日は来ないでね

先月号のお気に入り

今が消えるまで踊るしゃぼんだま きさしぎ彼句吾
なんか深そうで文芸的な匂いがした。しゃぼんだまはア
ワ。泡踊りに阿波踊りも加えたい。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

運勢が落ちた助けてアンパンマン
毛穴まで開放されそラムネしゅわ
老斑も納得できて次ページへ
夏服は去年と同じまあ平和
子等の声遠く近くに昼寝する

先月号のお気に入り

百までは生きなくていいだがしかし 村井規子
だがしかし、ですよ。何年生きてても足りない、のかも。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

仏壇の姑に毎日詫びている
門戸開放いつもウエルカムだった姑
ひたむきにひたすらに孫を育ててくれた
見ない振りしていた姑の後ろ姿
蘭だけが遺つて姑の三回忌

先月号のお気に入り

ずるいのは葉つきこかぶのまるさでしょう 守田啓子
こんな句を書くあなたが一番スルイ！

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

火でしたか陽炎でしたか屁でしたか
キツツキがひがないちにち前立腺をつつく
人として正しく転倒した：のかだ
人差し指の先の先から線状降水帯
モヒートをごぶり刺激の欲しいお年頃

先月号のお気に入り

覚悟せよ僕のマイナスインドライバー 芝岡かんえもん
承知した私のプラスドライバー

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

惜しみない拍手マスクをしています
保健所へ電話しました無言です
ご婦人に毒を盛れるのあなたです
主要な駅でだるまさんがころんだ
五日後に帰ると波の音消えた

先月号のお気に入り

素直になつて剪定をしてみよう 土田雅子
この剪定が曲者。心境を考えてみました。

ひとり静

【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

夏空のどっち向いても鈴が鳴る
名をつけてひとつの箱になる途中
ショートショート思わぬところに矢が刺さる
せつなさのむこうにひかりあればいい
ACジャパン味方につけて抗議する

先月号のお気に入り
三等分上手くできたら別れましょう 渡邊こあき
突然そんなこと言われても……

ひらく

【まみどり・青森県青森市】

鬱な日のカミヌマエミコ的な僕
蒲公英の綿毛に擬態し彼の胸
雨の日の車の中が秘密基地
体重計に口止めをしてだす水着
青室へ背筋伸ばして御雛様

先月号のお気に入り

先月号のお気に入り
ワンカップ旅がとっても好きらしい 柳谷たかお
そうみたい。缶ビールも仲間に入れてください。

三浦蒼鬼

【むらいのりこ・青森県大鰐町】

眼を開けて眠ると満月になれる
雨女らしい線状降水帯
作り笑いたした信号が狂いだす
ルーティーンですが特別意味はない
いつでもできるからなにひとつできません

先月号のお気に入り
古稀が来るザワザワと古稀が来る 斎藤泰子
落ち着かぬお年頃、私も間もなくです。

宮井いずみ

【むらかみあつこ・青森県青森市】

ポーズ取らない人だっているグリコ前
肉じゃがにどんと知ら恥トツピング
キーウイになつてどうでも良くなつて
爪先でたどる海底古代都市
妹からしやらり鬼辛ピザ届く

先月号のお気に入り
まず句点それが大事と思うけど ひとり静
ずっと話していて、あれ？何を言いたんだっけ？と思
うことがあります。

イエスノー今日も首筋這いまわる
正論は未だ音信不通です
冷蔵庫の隅に居座る罵詈雑言
昨日とは違う音出し生きてみる
おぼろ月一人芝居は得意です

先月号のお気に入り
出来ないと言わず解らないと逃げる 葉閑女
いいねいいね正解です。

まみどり

前触れもなくやつてくる夏野菜
お返事を待たずにおかわりが続く
詮索もご機嫌とりも程々に
わがままに音信不通などいかが
身勝手を通して狂う湿度計

先月号のお気に入り

エンドレスそれでも人は学んでる
よく食べてよく寝てきつと懼らない
ひとり留守作句に静けさはビタミン
世の狂い瘦せたさんまの一万は
一撃で加害者の名も現代史

先月号のお気に入り

乱舞する跳ね人をみたい今年こそ
復活の狼煙を上げるはずだった
ウイルスの変異増殖止まらない
祭りよりコロナの熱気沸騰中
コロナにはマスク手洗いうがいでしょ

先月号のお気に入り
新しい朝が来るから生きられる 柳谷たかお
本当にそうですね。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

茶筌ふる春の雨音ききながら
水ぬるむ明日の貌を描きたして
落ちこんで古関裕二の応援歌
かつさいにアドレナリンがあふれ出る
老いてなお素顔の心で道を行く

先月号のお気に入り
筋肉は杖と信じて一万歩 熊谷冬鼓
毎日筋力をつけるため約二千歩杖をつけて歩いてます。
継続は力なりと信じています

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

こんな日も出て・・・水臭い夕日だよ
半ドンだった自転車だった夕暮れた
さよならはすべて定型山笑う
持続不可能ごめん水色の恋
笑わせる 一字空けには母がいて

先月号のお気に入り
今の母を父はわかるのだからうか 田中 薫
かなしいけどやがて私たちもそうなるんだね。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

ウマ・トラ・ヒツジ暢気坊やはトラを選る
二死満塁やっぱり起こらないドラマ
寄り添って桔梗撫子女郎花
二百二十日大音響で聴くボレロ
星めぐり終えて絵本へ戻す空

先月号のお気に入り
足りぬものあり余るもの十三夜 吉田州花
十三夜のお月見でそんなふうに見えるなんて、素敵。

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

青い青い百篇くらい青い夏
元気を奮い起こす今夜のピール
すべすべでしわしわ肥えた指
だんだんと老けたが萎んだりしない
津軽衆の魅力ぶら下げハイジャンプ

先月号のお気に入り
こんなにもシャイだったのか閻魔さま 四ツ屋いずみ
そっだったんですか...どこで出会ったんですか？

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

ひまわりがじつと見つめる夏の先
平熱以上玉ねぎ以上 夏
初期化するなんもかんも脱ぎ捨てて
不器用な愛 素足で走ってる
黒揚羽尾行つづけて風になる

先月号のお気に入り
今が消えるまで踊るしゃぼんだま きささき彼句吾
しゃぼんだまも消えるまでの今を楽しみましょ

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

夢を見た北極星になつていた
さえずりに合わせて歌う癖がある
ほろ酔うてカナリアになる風になる
歌すべてピアノが生んだ子どもです
笛太鼓眠りから覚め祭り来る

先月号のお気に入り

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

手も口も出すまい今は待つ時間
育てたものが育てたように出す微光
言の葉の咲かせる花を摘んでいる
抜け殻を見ている闇を見ている
日本の川の脆さよ天の川

先月号のお気に入り

むさし【むさし・青森県蓬田村】

紫陽花と話がしたい足の爪
ジイサンになつた上腕二頭筋
満月を盗んだ夜は笑わない
鼻穴が無数に落ちている舞台
デジタルの海から風の船が出る

深艘心理

輪ゴムには☆のマークの落とし前 岩根彰子

(会員雑詠集 無人駅7月号より)

うーむ、かなりな難解句。その証拠にかのむさし代表も、無人駅で手をつけずに放置されていた句。「輪ゴムと☆マーク」をいくらググっても「輪ゴムで出来る星形の綾取り」しかヒットはしない。ので、ここは深艘心理的手法で考えてみるしかない。

およそ夫婦間での男が奥さんを文章で表す呼称として、普通は奥さん、嫁、カミさん、連れ合いなどと呼称するのだが、中には同居人やパートナー、ハニー、などのカッコつけた呼び方をしたり、お寺さんを職業とする場合は宗派によって特殊な呼び方をするらしい。特殊な例だが奥様が旦那を呼ぶ場合に飼い主というのもあった。ではその飼い主は奥さんを何と呼んでいるのかはいまだにお聞きする勇氣はない。

ま、それは置いといて、掲句だが、作者は旦那さんを正式な名ではなく渾名として「輪ゴム」と内心で呼んでいるのではないのだろうか。輪ゴムってのはなんかを取りまとめるときに便利だし、キツく縛ろうがユルユルにしようが輪ゴム使いの思うがままに形状を変えるまことに使い勝手の良いもの

なのだ。さてここからが掲句の解説になるのだが。輪ゴムである旦那は一つ失敗を犯してしまった。そう、輪ゴムは作者の許可を得ず、勝手に飲み屋のかわいい子ちゃんの身に自身のゴムを絡めてしまったのだ勿論ゴムを被せた上でのことだろうが世間ではそれを浮気、又は不倫と言うらしい。かくしてそれを知った作者がつけた落とし前が目から星が瞬くような強烈顔面パンチ。だったとしたら、どうよ。これでこの難解句はキツチリと解けたではないか。うむ。ま、指を詰められた訳でもなし、慰謝料を請求された訳でもなし、それ位で済んだんやったら自業自得やし、しよーがない。と潔く頭を下げるしかないわな。

輪ゴムさん、次からは尻尾を掴まれへんよーにあんじょうやりーや。

辛いなあ、モチるんやなあ、特に男前はお互いになあ：

輪ゴムがんばれと小さな声で言ってみる 一艘

の成れの果て

8月6日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(8名)

奈良一艘・熊谷冬鼓・小野五郎・渡邊こあき・葉閑女・野沢省悟・むさし・笹田隆志

▼投句者(24名)

柳本恵子・旅男・達毘古・安藤なみ・吉松澄子・土田雅子・吉田吹喜・岩根彰子・城後朱美・宮井いずみ・石橋芳山・米山明日歌・鳴海賢治・芝岡かんえもん・守田啓子・夏草ふぶき・きさらぎ彼句吾・三浦蒼鬼・まみどり・笹田かなえ・坂本清乃・まきこ・須藤しんのすけ・上村夢香

おかじょうき川柳社

8月例会

席題『踊る』

青森県弘前市 奈良一艘選

【佳作】

雨あがり金魚の踊る原爆忌
踊らせてみよう頑固な人だから
シンバルが鳴るまで踊っている指揮者
フラダンス最前列がチンアナゴ
発射台の上で南京玉簾
ひと踊りしたらぐっすり眠れるか
話すより踊った方が解るかも
平方根の中で踊っている土偶
情報に踊らされてる耳の裏
草取りをしている地球と踊っている

【秀逸】

踊り食いされる信者になっている
燃料棒が踊る活断層がはねる
踊れ踊れみんな写楽になっちまえ

【特選】

チークダンスだ介護されてるのではない

＊ その聞き直しがインテンションもあつていい。

席題『踊る』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

踊らせてみよう頑固な人だから
ピエロの影が踊り狂った村はずれ
燃料棒が踊る活断層がはねる
チークダンスだ介護されてるのではない
さあ行こう雨冠の舞踏会
話すより踊った方が解るかも
平方根の中で踊っている土偶
心太くにかくにやモディリアーニの腰つきで
ウォーリーを探してハネトの輪の中へ
踊れ踊れみんな写楽になっちまえ

【秀逸】

踊り食いされる信者になっている
踊るよに脱皮するよに少女羽化
フラダンス最前列がチンアナゴ

【特選】

発射台の上で南京玉簾

＊ こんな陽気な発射台ばかりないが。

宿題『ゆらゆら』

青森県青森市 小野五郎選

【佳作】

月曜日金魚の尻尾とランチ中

遠くまで行っちゃだめだよ一輪車
揺れているまなざしにある離岸流
流されているとも知らず浮いている
地震ですか、強風ですか、夢ですか
お急ぎなら浮棧橋でいいですか

午前二時ゆらりゆらりと深夜便

ゆりかごの心地よさなど忘れたわ
心地よいゆらぎへ必須アミノ酸
合歓の花ざわざわ揺れる原爆忌
渦まきの端っこゆらゆらの始まり
煩惱のひとつ向日葵揺れている
もしかして悩んでますかムダ毛処理
うたた寝か幽体離脱かわからない

夏草ふぶき

宮井いずみ

渡邊こあき

まみどり

むさし

宮井いずみ

上村夢香

まきこ

吉松澄子

熊谷冬鼓

笹田かなえ

三浦蒼鬼

まみどり

野沢省悟

葉 閑女

むさし

笹田隆志

野沢省悟

葉 閑女

渡邊こあき

むさし

奈良一艘

奈良一艘

むさし

野沢省悟

奈良一艘

小野五郎

小野五郎

葉 閑女

守田啓子

笹田かなえ

奈良一艘

土田雅子

葉 閑女

城後朱美

奈良一艘

旅 男

米山明日歌

奈良一艘

須藤しのすけ

三浦蒼鬼

むさし

むさし

風の日の吊り橋 雨の日のドミノ

＊ 人生の実相をとらえて、率直に表現した。

宿題『油』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

わたしの女が油照りしている
 しゃぶししゃぶに浮いてる五右衛門の油
 滑舌の悪い方には胡麻油
 発電をしてくれないか皮下脂肪
 行燈の油を舐めたぐらいが何さ
 どいつもこいつも許してしまう油紙
 憲法をドロドロにする胡麻油
 こんりんざい油断できないのはバナナ
 ブレーキOIL切れの前頭葉の乱
 体脂肪のせいで面接はねられる
 言いたいことは分かるけどってラー油の二・三滴
 亜麻仁油で復讐劇を組み立てる
 油性ペン真つすぐに生きてきたのさ
 グリス喰いオイルを飲んで滑降中

米山明日歌
 安藤なみ
 まみどり
 野沢省悟
 笹田かなえ
 芝岡かんえもん
 笹田隆志
 吉松澄子
 きさらぎ彼句吾
 葉 閑女
 熊谷冬鼓
 土田雅子
 柳本恵子
 旅 男

素うどんにかきあげ天と夏の雲
 おじさんに羽根が生えてる油虫
 スタンドでひまわり油入れて来る
 しょうもない男に油差してみる
 夕螢お調子者の油性ペン
 油屋の五軒隣の遊び人

鳴海賢治
 野沢省悟
 小野五郎
 城後朱美
 葉 閑女
 須藤しんのすけ

【五客】

のっそりと十年前のゴマ油
 天麩羅にしてはならない捨てゼリフ
 家系図に魚醤の引つ掻き傷がある
 素麺の油揚げの原油高
 ばあちゃんよりも長生きだね醤油差し

小野五郎
 野沢省悟
 岩根彰子
 奈良一艘
 城後朱美

【人位】

油揚げこんがりここは戦後です

守田啓子

【地位】

アブラカダブラくとさがきごぼうが死んだ

奈良一艘

【天位】

かさかさの掌 こわれてゆく時間

奈良一艘

一人残らず壊れてしまっただけど…。

宿題『自由詠』

青森県青森市 野沢省悟 選

【佳作】

タメ口をきいて乳首は出ていった
 汗かいた分だけ海を補充する
 前線の南下ポン酢にアメフラシ
 すらすらと嘘これからも木漏れ日の
 ジャンケンで勝った奴からカニカマに
 びかぴかの一年生だった大統領
 心頭を滅却したらバテました
 居て欲しい時だけ居て欲しい夫
 男つて暑い時には熱いお茶
 孤独感なら氾濫危険水位
 もう母の一部でなくつてよ バナナ
 遺伝子を許そう君もズッキーニ
 曲り胡瓜言いたいことがあるらしい
 透き通った人かき混ぜて午後の雨

奈良一艘
 三浦蒼鬼
 石橋芳山
 笹田かなえ
 奈良一艘
 小野五郎
 葉 閑女
 土田雅子
 三浦蒼鬼
 守田啓子
 守田啓子
 宮井いずみ
 熊谷冬鼓
 須藤しんのすけ

墓穴を背負ってどこへ行くのかね

正直者の列に並んでいるクジラ

今ならばやり直せるか蟬時雨

蟬踏んじやって季語の五分の一消える

食欲が落ちないのです干からびて

一人言なのか誘われているのか

【五客】

「さようなら」たった五文字の物語

まきこ

木があれば男はすぐに舟つくる

米山明日歌

わたくしの二分の一は致命傷

まきこ

600W5分で恋が戻ります

吉松澄子

ワン・ツーの次に右フックのワサビ

石橋芳山

【人位】

一発の銃弾に問う的の格

旅 男

もうなにも匂いのしない蘭奢待

芝岡かんえもん

【地位】

わたくしは「ひょうたん島」の成れの果て

奈良一艘

『ひょうたん島はひょうこりひょうたん島のこと。あ番組が流れていた頃は、未来があった。そして今はその結果「わたくし」の中にあきらめと自負がある。』

川柳吟行会「ぽ」

課題『川』

コロナの影響からか、川柳吟行会「ぽ」の七月合評会はわずか三名の出席でしたが、「川」の五四句について、それぞれ感想、疑問、共感を語り合いました。吟行なので、天の川を詠んだ句が幾つかみられたことと、他に「私だけの石を捜しにいく河原」の「石」について、「川沿いに並ぶ万引きした指だ」で映画「万引き家族」を想起したこと、「風鈴に行にまぎれ込む小川」の「ら行」の意図、「※が腰掛けるミルキーウェイ」の「※」の意味について意見を交わし、句を鑑賞しながら有意義な時間を過ごしました。(隆志)

【14点】特×6・佳×2

訃報欄川は流れてゆくばかり

吉田州花

【宋美】夢も希望もあつたあの頃、若かつたなあ。現実はそのなかに甘くない。いいことばかりないよね。【文音】桃の里で育つて暴れ川で遊んだ記憶が蘇りました。台風で荒れた川は鍋やら下駄やら多くの物が流れました。桃は流れてこなくても甘い瑞々しい桃の味は心に留まっています。【五郎】独特なユーモアに溢れている。【冬鼓】大半の人生はそんなだろう。たまに流れてくるスモモや桃の種くらいで大はしゃぎして。

願わくばある日ぶつとらぶかな川に

守田啓子

【達毘古】選ばないといけない句。母なるガンジス川へ還るヒンズー教徒的願い？それとも太宰か、安吾の紫大納言的悲しみの果て？でも、うららかな？【州花】ふと、うららかな川になりたいのか、川に飲み込まれるように息絶えたいのか、川にの止めに引き込まれた。【柳本恵子】うららかな川がいいですね。【冬鼓】ふと気づいたら川になっっているなんて。願わくば源流のひとつに。

鉄橋を渡る夏色のくちびる

須藤しのぶ

【いずみ】鉄橋はずっと列車を待っている。やっと来たと思えばすぐに通り越してしまうのだが、来たのは「夏色のくちびる」だった。なぜかロマンズを感じてしまう。【規

【善江】異常気象などの影響でしょうか、新聞の訃報欄も拡がっています。影響力のある元総理の死亡さえも日常のひとつのように変わらさず川は流れているのです。【吉見恵子】上手い作りです。誰も止められない定め川です。無常感がつる。【柳本恵子】訃報の便りが届くと何もできない自分の無常観を川が流れるという言葉で表しているのがすごいです。【啓子】命の儚さ尊さを考えさせられた。生も死も受け入れて川は流れるのだらうけど。訃報欄と川の取り合わせが絶妙。【五郎】世の無常を素直に表現した。【冬鼓】上5で自分の死まで思いが及ぶ。自分がいなくなっても川のように時も流れていくばかりだ。【隆志】着崩しのひとの死を訃報欄で知り、川の流れの無常を想ったばかりです。【さち】そういえば昔誕生欄があった気がします。だけど流れは流れですね。

【6点】特×2・佳×2

桃なんて流れてこない川だった

柳本恵子

映画の一場面か、主題歌の歌詞。素敵な一句【文音】不思議さに引かれました。鉄橋を渡る電車の夏色の唇は自分。窓に写る景色が自分の顔と重なって夏色なのだと思えました。【かなえ】鉄橋を渡る時の振動と鼓動が重なって聞こえてきそう。夏色のくちびる」がズルい(笑)

【5点】特×2・佳×1

私までどこを通過って来た川か

吉見恵子

【与生】まどろっこしい書き方で、もう少しすっきりした書き方もできると思うが逆にそのまどろっこしさが川の蛇行を感じさせ効果的なのかもしれない。反面、ストーリー的読み方もできるので評価は分かれるだろう。【隆志】ある人がある日突然いなくなり、30年後ふらり戻って来た。その間彼は何をしてきたのか、とても気になるものの黙って受け入れる私。【州花】私が最後の女になれるかとか思ってしまった。

【3点】特×1・佳×1

川べりを手繋ぎで行くノカンゾウ

滋野さち

【こあき】川べりに、ノカンゾウが連なって咲いている様子が、手を繋いで歩く子らを思わせ楽しい。【いずみ】手を繋いでいるようなノカンゾウ。爽やかな夏の川辺の

明るさを感じる。

【3点】佳×3
ガジユマルの川をのぼってゆく夕陽 宮井いずみ

【しんのすけ】大きく大らかな自然の愛が感じられます。
【州花】南国の夕陽に出逢った。【さち】沖縄戦を想いしました。そしてウクライナも。

【2点】特×1
私だけの石を探しにいぐ河原 宮井いずみ

【さち】石は意志。自分自身を探し続けることが大事です。生き方も、句も、自分らしくを心がけたいと思っています。

夜の川ちつともワタシ悪くない 熊谷冬鼓

【しんのすけ】全体に絡む口語体的表現が、重くなりがち。黒のテーマを軽く感じさせてくれる。悪戯っぽさがまた心地良い。

川底の土砂を盛り上げ梅雨あける 城後朱美

【かなえ】梅雨明けの川の実態はよく解らないが、リアル。

好きだけど抱きとめられぬ川だもの 吉田州花

【朱美】私の愛した人は川だったんだ。【啓子】「川だもの」の意外性。面白く読んだ

天の川人をあやめる時刻です 守田啓子

【文音】神秘的で星の世界はいつでも人を危める時刻を想像させる力があるのでしょうか。【隆志】満天の天の川を眺めているうちに、心を動かされ、いよいよ決行すること。

印象の薄い子だったと澱む川 熊谷冬鼓

【達昆古】川は澱んで嫌がってんじゃないよ。子にしたら川に悲苦をぶちまけてやった。【かなえ】「澱む川」の比喩が効いている。読後のやるせなさ。

【1点】佳×1

わたくしを流れる川は乾いてた 城後朱美

蛍川いまだ消えずに原爆忌 福田文音

溪流には込み入った事情があるようだ 小野五郎

川の近くにお住まいなのか。梅雨明けの心象も伝わる。

大雨で御息所に化けた川 村井規子

【彰子】確かに川は化け物、普段はとても穏やかな顔をしている。荒れ狂う川を「御息所」とは飛躍が見事と感じた。

【2点】佳×2
五十年川の鼓動に沿ってきた 滋野さち

【吉見恵子】殆どの人が、得体の知れない川に沿って生きてきたのです。【こあき】川の鼓動がいい。私は沿うは添うがいいかな。

独裁者も歴史の川の一滴か 達昆古

【彰子】時事句として成り立つ。下五の一滴かがよい。【柳本恵子】人類の歴史を見ると、そうかと思えます

最期ではなく川にうまれるところ 守田啓子

【朱美】川に生まれ変わるなら、素敵だな。【規子】私には来世もきつとあると信じているひとり。

風鈴にら行にまぎれ込む小川 笹田かなえ

川の字になって眠ったのは昨日 城後朱美

※が腰掛けるミルキウエー 岩根彰子

川上から聴こえる長い御詠歌 月波与生

小母さんへ桃を届けに行くところ 須藤しんのすけ

川だったことはなかったことに 泣く 笹田かなえ

梅花藻は何を消去してはるの 岩根彰子

N町の美人川にて洗濯す 福田文音

濡れたものにおいいちめん天の川 笹田かなえ

川を覗くと河童ものぞく夏休み 吉見恵子

十和田たてがみ川柳会七月句会

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・
瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田幸柳
○投句者 磯島雅男・斉藤蛙井・城後朱美

■席題『再生』 中村 英三 選

【平抜き】

命拾いしたから更に磨かねば
自然エネ地球再生カギ握る
古民家が手入れて息を吹き返す
いつ返る緑の町の樹々倒し
モノ忘れ再生可能なネジを締め
続編のリベンジ甦る命
代議士の不祥事切れたトカゲの尾
出来るなら再生を我が人生記

【秀 逸】
震災を乗り越え今日も船を出す
揺れるたび再現される大津波

瀧尻 善英
福田 芳記
佐藤まさあき
村上 昌子
高田 幸柳
瀧尻 善英
福田 芳記
木村奈生美
佐藤まさあき
瀧尻 善英

【特 選】

焼け跡に希望が芽吹くウクライナ

高田 幸柳

■席題『再生』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

総辞職たかがトカゲの尻尾切り
代議士の不祥事切れたトカゲの尾
夢を見た再生できぬ悔しさよ
モノ忘れ再生可能なネジを締め
いつ返る緑の町の樹々倒し
春がきた再生かけて頑張るぞ
再生の地球を描いた未来地図
震災を乗り越え今日も船を出す

【秀 逸】
プライドも苦節も抱く再生紙
古民家が手入れて息を吹き返す

高田 幸柳
福田 芳記
中村 英三
村上 昌子
中村 英三
木村奈生美
佐藤まさあき
木村奈生美
佐藤まさあき
高田 幸柳

■宿題『酒』 佐藤まさあき 選

【平抜き】

酔うほどに愚痴が溜ったコップ酒
コロナ禍に小さな酒屋が消えていく
守秘義務を溶かしてしまおう旨い酒
栓抜きのビールが洩らす自己主張
ほどほどの酒で緊張緩くなり
呑み会の約束事に罪はない
気がつけば三代揃って酒の席
異常無し通知安堵の旨い酒

酒飲まぬ人は話が進まない
風に揺れ赤ちやうちんが泣いている
酒ばかり悪者にする妻の前
別れ酒亡き父好きな冷酒で

【秀 逸】

呑んべえの一族に浮く下戸一人
ビアホール飲んでる客の顔がいい

【特 選】
寄る歳が一合酒に融けてます

齊藤 蛙井
城後 朱美
瀧尻 善英
木村奈生美
磯島 雅男
高田 幸柳
中村 英三
木村奈生美
城後 朱美
久保あざみ
村上 昌子
村上 昌子
福田 芳記
齊藤 蛙井

■宿題『晒す』 村上 昌子 選

【平抜き】

風邪気味と言っては甘い寒晒し
晒したくない一葉の古写真
青空へ晒す涙のユニホーム
痩せ細る脛カラ晒してる猛暑
顧みて晒したくない深い悔
政争を凝視している晒し首
人前で恥を晒して指を押し
外国でマナーを知らず恥晒す
晒し布巻いた威勢の祭りバカ
醜態を晒され炎上躍り出す
真実を晒して欲しい安倍首相
野晒しの苗が大きな花をつけ

【秀 逸】

胸襟を開けて二人の縮む距離
煩惱を水に晒して武者震い

【特 選】
正直な人だな尻尾まで見せる

中村 英三
齊藤 蛙井
木村奈生美
磯島 雅男
齊藤 蛙井
高田 幸柳
久保あざみ
福田 芳記
木村奈生美
瀧尻 善英
中村 英三
高田 幸柳
瀧尻 善英
高田 幸柳
城後 朱美

□ 2022.10.09 第40回東北川柳連盟秋田大会・第86回秋田県川柳大会

【日時】令和4年10月9日(日)開場・受付9時/席題発表10時/出句締切11時半/大会開始13時【会場】アキタパークホテル【会費】2,500円(昼食・大会誌呈)【宿題共選】(各題2句詠・2人選)『遺跡』高瀬霜石(青森)・渡部光人(秋田)選/『牧場』熊谷岳朗(岩手)・赤石ゆう(秋田)選/『さくらんぼ』片倉卯月(山形)・藤咲子(秋田)選/『フラダンス』駒木香苑(福島)・加藤一行(秋田)選/『七夕』雫石隆子(宮城)・高橋三鳩枝(秋田)選【席題共選】(一題二句詠・2人選)『印象吟』長谷川酔月(秋田)・大石一粋(秋田)選【表彰】東北川柳連盟大賞・東北川柳文学大賞ほか【前夜祭】会費5,000円(希望者のみ)午後6時会場アキタパークホテル【宿泊】10月8日アキタパークホテル一泊朝食付4,500円 *大会・前夜祭宿泊の申込先(9月30日締切)/大会参加のみの方も会場設営及び昼食の準備のため、電話かFAXで事務局へお知らせください。(事務局)〒010-0953 秋田市山王中園町10-17シーライトマンション306 菅原浩洋 TEL.090-2973-8871【主催】東北川柳連盟・秋田県川柳懇話会

□ 2022.11.23 尾張旭川柳会 創立35周年記念川柳大会

～大会のスムーズな進捗を図るためすべて事前投句とします～【課題と選者】(各題2句)共選『起』鈴木順子(豊橋番傘川柳会)・北原おさ虫(フェニックス川柳会) / 『慣れる』堀内重紀(名古屋番傘川柳会)・猫田千恵子(川柳きぬうらクラブ) / 『鈍い』原雄一郎(名古屋川柳社)・山下吉宣(岡崎川柳研究社) / 『ときめく』やまぐち珠美(老名川柳天馬)・荒川八洲雄(中日川柳会) / 『自由吟』浅見和彦(尾張旭川柳会) 謝選【投句締切】10月31日(月)(当日消印有効)【投句用紙】所定の用紙(11月23日の披講・表彰式の出欠を明記して下さい)【投句料】¥1,000円(切手不可)【投句先】〒489-0031 瀬戸市五位塚町11-329 青砥和子宛【発表】「川柳あさひ」12月号に掲載(12月初旬にお届け予定)※「川柳あさひ」12月号(創立35周年記念川柳大会号)と「35周年記念合同句集」を参加者に同送します。【披講・表彰式の日時】(マスク着用、アルコール消毒、検温等の感染対策の徹底をお願いいたします)令和4年11月23日(水)13時15分～16時【会場】尾張旭市文化会館「あさひのホール」(293席)【表彰】尾張旭市長賞、愛知川柳作家協会会長賞、中日新聞社賞、他【問い合わせ先】水野奈江子:電話FAX.0561(54)5960・090(4855)4049 青砥和子:メールアドレス aoto11@gctv.ne.jp ※連絡があれば所定用紙を喜んでお送りいたします。【主催】尾張旭川柳会【後援】愛知川柳作家協会・中日新聞社

◆十和田たてがみ川柳会9月会案内◆

【時】9月17日(土)午前10時から【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『すつきり』久保あざみ選/『すらすら』斉藤蛙井選【互選】(一句詠)『好き』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒024-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

■宿題『錯覚』

互選

- | | |
|--------------------|--------|
| ① 現実と見まごう義姉と夢の中 | 村上 昌子 |
| ② 家呑みでカミさんママに見えてくる | 佐藤まさあき |
| ② 昼寝して夕陽で目覚めあれ朝だ | 福田 芳記 |
| ② うちの子を磨きダイヤにするつもり | 瀧尻 善英 |
| ② ぶつかった透明ガラス有ったのか | 中村 英三 |
| ③ 錯覚と思うことになった迷い事 | 斉藤 蛙井 |
| ④ 錯覚を信じ続けてノーベル賞 | 高田 幸柳 |

□ 2022.09.19 第59回東北北海道川柳大会

【日時】令和4年9月19日(月曜祭日)受付午前10時より【場所】とかちプラザ1階大集会室(JR帯広駅南口前)帯広市西四条南13丁目30番地0155-22-7890【宿題一部】各題二句詠(新作・事前投句)「緑」折原博美(札幌)・池田山葵(札幌)共選/「集まる」大家北灯(登別)・岡本恵美子(札幌)共選【投句料】1,000円(大会誌呈)【投句用紙】指定用紙(コピー可)住所・氏名・雅号・電話番号・大会及び懇親会への出欠明記【投句締切】7月20日(水)締切厳守【投句先】080-0052 帯広市新町東5丁目5番地 伊藤寿子方 東北北海道川柳大会事務局 ☎・Fax 0155-34-3500【公開川柳】みんなで語ろう 当日参加者による川柳鑑賞【宿題二部】各題二句詠・出句締切り11時30分「伸びる」清水ひろこ(小樽)選/「待つ」青柳忠(札幌)選/「命」落合魯忠(札幌)選【大会参加費】2,000円(昼食代含む)【賞】(宿題一部)合点10位 同点の時は順位、抜句数、到着順/(第二部)特選賞(各選者別計9句)【懇親会費】5,000円希望者のみ(終了17時)【主催】東北北海道川柳連盟 主管 帯広川柳社 *コロナ予防から大会中止場合は宿題一部をもって「東北北海道川柳誌上大会」と致します。

■会費拝受【7月受付分】

桜田富士江（蓬田村）/野口三代子（愛媛県）/村上あつこ・渡辺こあき（青森市）
 ※基金有難うございました（藤田めぐみ様）

■おかじょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社
 →会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

..... 終着駅 Sin

◆川柳ステーション 2022 に協力していただいた、なかはられいこさんの21年ぶりの句集「くちびるにウエハース」が発売された。なかはられいこと言えば、「平仮名の魔術師」と言うべきか、「神の平仮名を持つ女」とか「平仮名を制するものは世界を制す」など、言われたり言われなかったりする。句集にも平仮名を使った作品が多数出てくるのだが、もちろん、彼女が極端に漢字を知らない人ではなく、その効果を狙って敢えて平仮名で表記している。だからといって、何でもかんでも平仮名にすればいいというわけではない。平仮名で表記したそこに、なかはられいこの詩、意思が感じられる◆例えば句集から「ともだちがつぎつぎ縁になる焦る」を挙げてみる。「友達」「ともだち」と表記の違いでどのような効果があるか。私個人の感覚では「友達」と漢字表記されていると、その熟語が目に入った瞬間、それが持つ意味、概念、記憶というものが一瞬で前に立ちはだ

かり、その言葉をロックしてしまう感覚がある。人生経験も含んだ自分の中にある雁字搦めの「友達」しか出てこない。それを「ともだち」と平仮名表記されると、その立ちはだかっていたモノたちが一瞬躊躇する。「友達」が持つしがらみのようなものが、自分の中で一気にメルトダウンする感覚である。そこからは、まるで子供のように（あれ？ともだちってなんだっけ？）と思考が幼児化し、頭の中でまた新たな「ともだち」の概念を見つけ出そうとする◆前述の「ともだち」に加えて、「やくそく」「あいさつ」「ぜんぶ」「からだ」「こいびと」など、言葉が持つステレオタイプ概念と、自分の日常との違和感のようなものを平仮名にして、またその逆サイドに対峙するように「木綿豆腐」「冬の花火」「ナイフ」「川の匂い」「乾電池」などを置くことによって、その違和感の提起を大きく見せている。その距離感、バランス感が、なかはられいこの真骨頂ではないかと私は思っている◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.09.14 「川柳吟行会 ぼ」9月句会

【投句締切】9月14日（第2水曜日）【題・投句数】『雲』3句【合評会】9月21日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならおかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2022.10.01 おかじょうき川柳社本社 10月句会

【時】10月1日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】9月30日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『らんらん』/『落』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「老化」1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com（守田啓子）■句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2022.10.12 「川柳吟行会 ぼ」10月句会

【投句締切】10月12日（第2水曜日）【題・投句数】『地』3句【合評会】10月19日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならおかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2022.10.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句

■おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（12月号分）【締切】10月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】12/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

第27回

杉野十佐一賞
作品募集

課題/締切

「産」(2句詠) / 2022.9.30 ✕

選者

徳永政二 (滋賀県 / 「びわこ番傘川柳会」所属)

なかはられいこ (岐阜県 / 「ねじまき句会」所属)

樋口由紀子 (兵庫県 / 「晴」編集発行人)

広瀬ちえみ (宮城県 / 「垂人」編集発行人)

中前棋人 (静岡県 / 第26回杉野十佐一賞大賞受賞者)

むさし (青森県 / おかじょうき川柳社 代表)

投句料

1,000円 (発表誌をもって投句料領収したものとさせていただきます / 締切日まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます)

応募方法

※郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<https://forms.gle/iAX2fZRBvFG37iyc8> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。送信後、締め切り日までに下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。



ス／ホで簡筆読み込み！

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「第27回杉野十佐一賞」として、下記送信先までメール送信してください。

<送信先アドレス(守田啓子宛): moriko@okajoki.com>

送信後、下記口座に投句料1,000円をお振込みください。

振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

発表

月刊おかじょうき 2023年1月号の誌上において発表。

サイト掲載：2023年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

基本的に著作権は作者に帰属しますが、出版権、雑誌掲載権など、作品を自由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※応募された原稿に関するお問い合わせや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他の目的で使用することはありません。

2022年9月10日発行(年12回発行) 第26巻第9号通巻342号
 ●発行人 / むさし ●編集 / Shin ●発行 / おかじょうき川柳社 ●表紙題字 / 金子榮風
 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田中師宮本2の3 ●E-Mail: info@okajoki.com